

愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2020年度	開講期(Semester)	後期
授業科目名(Course name)	【併用】東邦プロジェクトA		
担当者(Instructors)	船木 恵一	配当年次(Dividend year)	1
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	選択

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)
地域社会をどうしたらよりよくできるかをテーマに、学生自らが主体的に地域社会や大学にとって意義のある活動を考え、行動してゆく授業です。活動を通じて、地域社会の課題の理解を深めるとともに、主体性・行動力・チームワーク・リーダーシップについて実践的に学んでゆきます。

■授業形態・授業の方法(Class form)	
授業形態(Class form)	演習
授業の方法(Class method)	演習・実習方式。学生が主体的に活動テーマを選択し、対象を調査分析～報告や提言活動を行うアクティブラーニング方式です。必要に応じて、①ディスカッション、②グループワーク、③フィールドワーク、④プレゼンテーションに加え、⑤外部の連携先と共同作業やミーティングに参加します。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)			
回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	プロジェクト概要のオリエンテーション	学びのポイント、取組姿勢の確認を行います。合わせて履修生の自己紹介を行います。	☐
第2回	取組テーマのディスカッション	学生中心に取組テーマを討議してゆきます。(以降の日程はあくまで一例。取り組む内容によって変動します)	☐
第3回	取組テーマの具体的アプローチの抽出と日程化	設定したテーマに沿って、具体的なアプローチ(取組方法)を決め、作業日程を組んでゆきます(スケジュール化)。	☐
第4回	外部連携先とのアポイント獲得	作業日程に従って、必要な外部連携先とのアポイントを申し入れます。また、打ち合わせに必要な資料を集めます。	☐
第5回	フィールドワークの取組を決める	作業日程に従って、アンケート調査、文献調査、検索活動、訪問ヒヤリングなどの詳細を決めてゆきます。	☐
第6回	フィールドワークの活動を行う	上記で定めた活動に取り組みます。状況に応じて授業時間外の活動を行う場合があります。	☐
第7回	連携先との打ち合わせ準備を行う	打ち合わせに必要な書類等の作成に取り組みます。	☐
第8回	中間報告(連携状況、フィールドワーク状況など)	これまでの作業状況に関する情報共有を行うとともに後半日程の確認を行います。	☐
第9回	フィールドワークを追加し継続する	不足している情報を洗い出し、追加する手法の検討を含めてフィールドワークを継続してゆきます。	☐
第10回	アウトプット(成果)の目標を定める	最終的な成果目標(到達のゴール)を設定・確認します。	☐
第11回	最終成果物の制作準備を開始する	イベント、アンケート調査、制作物作成など、最終成果物の準備を開始してゆきます。	☐
第12回	最終成果物の制作を継続する	上記の活動を継続します。状況に応じて授業時間外の活動を行う場合があります。	☐
第13回	最終成果物の作成を完了する	イベント実施、調査まとめ、製作物納品等を行います。	☐
第14回	連携先へ実施報告書等を提出、連携先のメディアへの露出を依頼する	外部連携先に成果物や報告書等を提出し、連携先が管理運営するメディア等での紹介を依頼したり、学内メディアにて成果報告を行います。	☐
第15回	演習内での成果発表会	期末に取組の概要、成果物披露、学びの成果を発表します。	☐

■授業時間外学習(予習・復習)の内容(Preparation/review details)
半期15回の授業回数を予定します。また決められた曜日時間帯以外での活動が想定されます。連携するパートナーとのミーティングや提案に備え、授業時間以外に、毎週4時間程度の、自主的な作業を行うことになります。履修学生は時間外活動を含めた柔軟な日程管理が求めら

れます。

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

毎週進捗状況を確認し、各学生が自分の役割を想定通り行われているかだけでなく、相互に確認や支援してゆく体制を履修生全員でつくってゆきます。後半では確定したタスクに対して、連携する第三者の評価を含めて個人にフィードバックしてゆきます。優れた文書作成や積極的な貢献行動は、都度学生間にて共有化し、個人のみならず受講生全体での学びの機会としてゆきます。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
主体性	◆ 2019全学共通DP3	大学・学生の地域社会における貢献性について個人の意見を主張できる。 プロジェクトを通じて自己を理解し、主体的に他者と協働して問題を解決できる。

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験 (in-class exam)	その他(Other)
			100%	

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

自身を真摯に見つめ、自己と社会との関係を考える姿勢。積極的な行動力。チームワークや成果を志向するリーダーシップなどを総合的に評価します。

■テキスト(Textbooks)

No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	ありません。	
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)

No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	ありません。	
2		
3		
4		
5		